

LM・米ドル毎月分配型ファンド

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第167期（決算日2015年12月18日） 第168期（決算日2016年1月18日） 第169期（決算日2016年2月18日）
第170期（決算日2016年3月18日） 第171期（決算日2016年4月18日） 第172期（決算日2016年5月18日）

作成対象期間（2015年11月19日～2016年5月18日）

第172期末（2016年5月18日）	
基準価額	7,048円
純資産総額	10,459百万円
第167期～第172期	
騰落率	△11.4%
分配金（税込み）合計	42円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「LM・米ドル毎月分配型ファンド」は、2016年5月18日に第172期の決算を行いました。

当ファンドは、米ドル建債券への投資で得られるインカムゲインにより、米ドル短期金利水準の分配を毎月行い、米ドル原資産元本の安定した運用成果を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

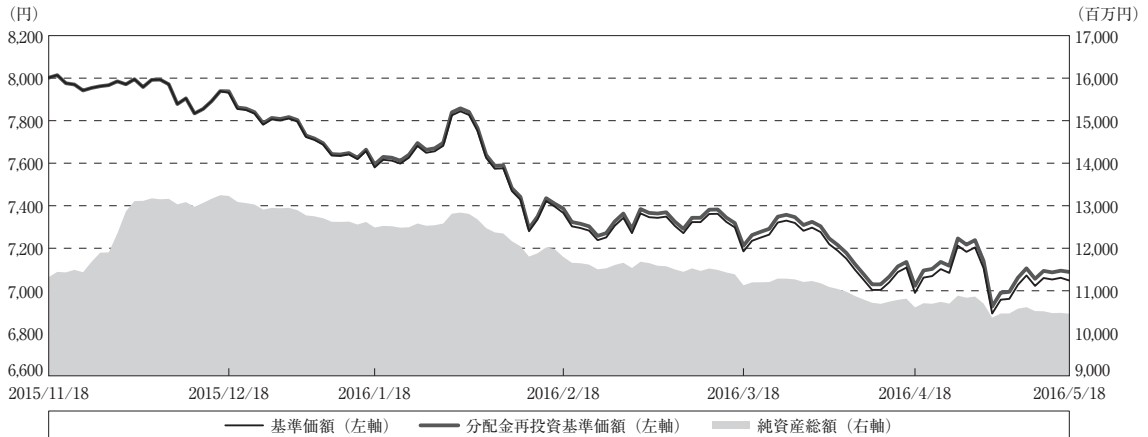
（営業日の9:00～17:00）

<http://www.leggmason.co.jp>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2015年11月19日～2016年5月18日)



第167期首：8,002円

第172期末：7,048円 (既払分配金 (税込み)：42円)

騰落率：△11.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首 (2015年11月18日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当作成期末 (2016年5月18日) のLM・米ドル毎月分配型ファンド (以下、当ファンド) の基準価額は7,048円 (分配金控除後) となりました。当作成期の当ファンドのパフォーマンス (騰落率) はマイナス11.4% (分配金再投資ベース)、基準価額は912円 (分配金込み) 下落しました。

公社債利金を手堅く確保しましたが、米ドル安・円高を受けて為替損益がマイナスとなったことが、基準価額の主な下落要因となりました。公社債損益については、基準価額に与える影響は大きくありませんでした。

1万口当たりの費用明細

(2015年11月19日～2016年5月18日)

項 目	第167期～第172期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 25	% 0.326	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	(11)	(0.143)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(12)	(0.161)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.021)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	2	0.028	(b) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.019)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷等費用)	(0)	(0.006)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用
合 計	27	0.354	
作成期間の平均基準価額は、7,558円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

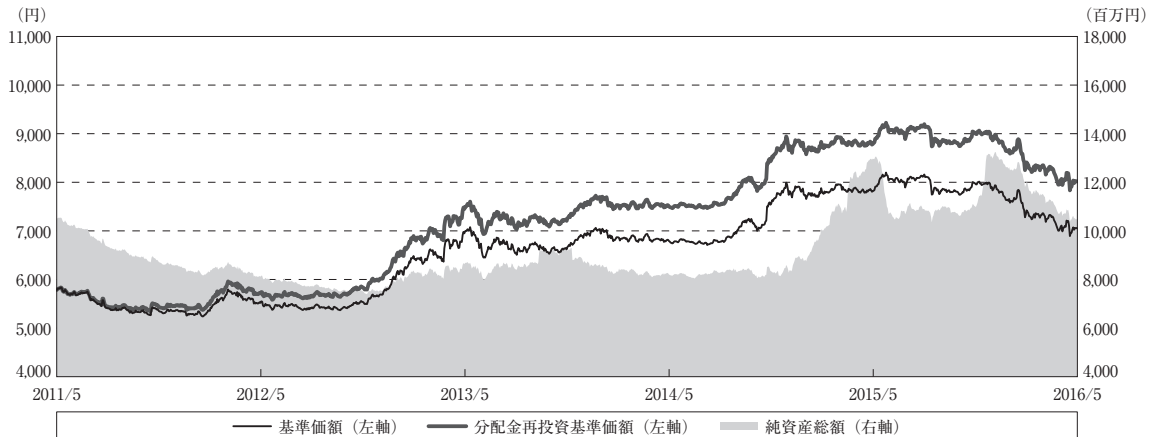
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年5月18日～2016年5月18日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2011年5月18日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年5月18日 決算日	2012年5月18日 決算日	2013年5月20日 決算日	2014年5月19日 決算日	2015年5月18日 決算日	2016年5月18日 決算日
基準価額 (円)	5,783	5,464	7,034	6,758	7,826	7,048
期間分配金合計(税込み) (円)	—	204	204	204	114	84
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 1.9	33.2	△ 1.0	17.6	△ 8.9
純資産総額 (百万円)	10,484	8,032	8,713	8,170	12,957	10,459

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較していません。

投資環境

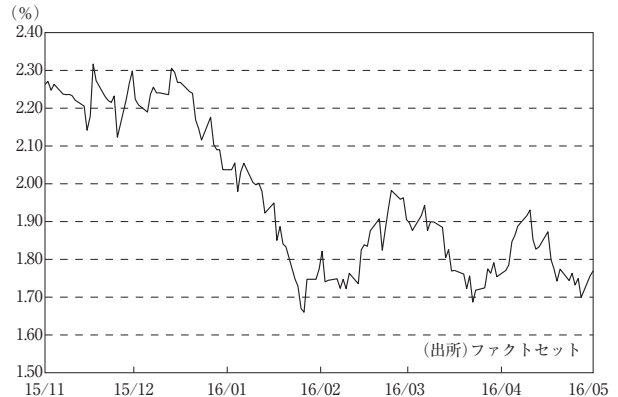
(2015年11月19日～2016年5月18日)

当作成期の米国債券市場は、中長期債を中心に利回りが低下（価格は上昇）しました。期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による早期利上げの可能性が高まったことや、その後の利上げ開始の決定などを受け、利回りは短期債を中心に上昇しました。しかし、その後は、原油価格が下落基調を強め、株式相場も世界的に下落したことから、投資家のリスク回避姿勢が強まる中、利回りは低下に転じました。期の半ばは、日銀がマイナス金利の導入を決定したことや、FRBが金融市場の混乱などを背景に、追加利上げを先送りするとの見方が広がったことなどから、利回りの低下が進みました。しかし、その後は、原油価格が反発するとともに、株式相場も上昇し、リスク回避姿勢が和らいだことから、利回りは上昇しました。期の後半は、FRB議長が追加利上げに慎重な姿勢を示したことから、利回りは低下しました。その後、原油価格や株式相場も堅調に推移する中、利回りは一時上昇しましたが、FRBによる今後の利上げペースが緩やかになるとの見方が広がる中、当作成期末にかけて再び低下しました。

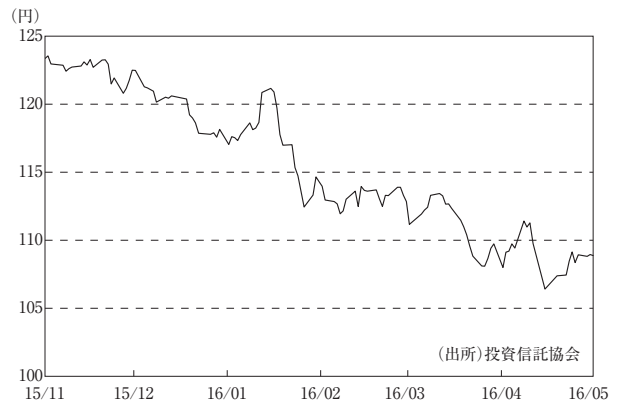
社債セクターは、底堅い展開となりました。世界経済の減速懸念などを背景に株式相場が下落し、リスク回避姿勢が強まったことから、社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は期の前半から半ばにかけて拡大しました。その後、期の後半にかけては、株式相場が持ち直しの動きを強める中、スプレッドは縮小しました。モーゲージ証券（MBS）セクターについては、FRBによる利上げ開始観測や、その後の利上げ決定などを受け、スプレッドは期の前半に拡大しましたが、その後は、FRBが追加利上げに慎重な姿勢を維持するとの見方が広がったことなどから、スプレッドは縮小しました。資産担保証券（ABS）セクターについては、社債セクター同様、底堅い展開となり、スプレッドは期の前半から半ばにかけて拡大した後、後半には縮小しました。

当作成期の米ドル・円相場は、米ドル安・円高となりました。期の前半は、原油相場が軟調となり、世界景気の先行き懸念から株式相場も世界的に下落したことから、リスク回避に伴う米ドル売り・円買いが優勢となりました。期の半ばは、日銀によるマイナス金利の導入を受けて、米ドルは対円で上昇しました。しかし、その後は、FRBによる追加利上げが先送りされるとの見方が広がったことから、米ドルは反落しました。さらに、原油価格や株式相場が下値を探る展開となる中、米ドル売り・円買いが強まりました。期の後半は、FRBによる今後の利上げペースが緩やかになるとの見方を背景に、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後、当作成期末にかけては、日銀による追加緩和期待が広がり、米ドルを買い戻す動きが見られましたが、日銀が追加緩和の見送りを決定したことから、米ドルは引き続き上値の重い展開となりました。

米国10年国債利回りの推移



米ドル／円相場の推移



当ファンドのポートフォリオ

(2015年11月19日～2016年5月18日)

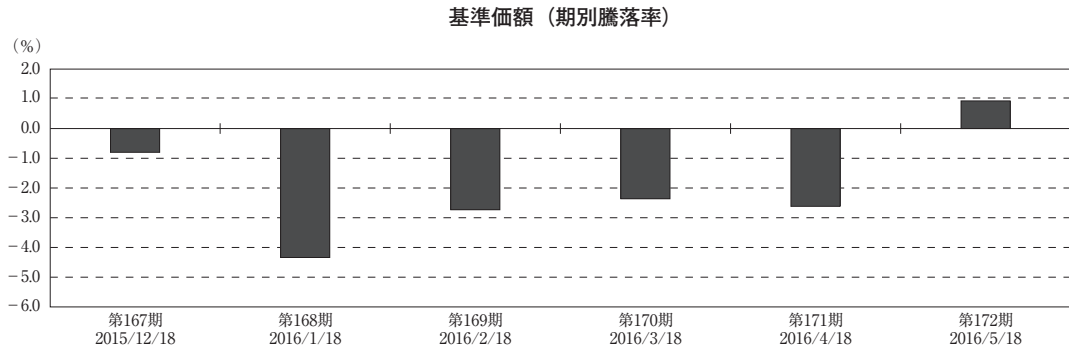
当ファンドは、主に「LM・米国短期投資適格債マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主として米国の国債、政府機関債、事業債、モーゲージ担保債務証券等を含むモーゲージ証券、資産担保証券等を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用に努めてまいりました。主たる投資対象である個別債券は、原則としてS&P、ムーディーズ、フィッチ・レーティングスのうち1社以上の格付機関からBBB-／Baa3格以上の格付けを付与されているものとし、ポートフォリオの平均格付けはA-／A3格以上を維持します。当作成期の運用においては、引き続き高格付債券への投資比率を高位に保ちました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年11月19日～2016年5月18日)

市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

以下のグラフは、作成期間の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

(2015年11月19日～2016年5月18日)

分配金につきましては、基準価額動向や保有債券の利子収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第167期	第168期	第169期	第170期	第171期	第172期
	2015年11月19日 ～2015年12月18日	2015年12月19日 ～2016年1月18日	2016年1月19日 ～2016年2月18日	2016年2月19日 ～2016年3月18日	2016年3月19日 ～2016年4月18日	2016年4月19日 ～2016年5月18日
当期分配金	7	7	7	7	7	7
(対基準価額比率)	0.088%	0.092%	0.095%	0.097%	0.100%	0.099%
当期の収益	3	2	2	3	7	7
当期の収益以外	3	4	4	3	—	—
翌期繰越分配対象額	369	364	360	356	365	365

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

米国経済に関しては、2016年1-3月期GDP成長率(速報値)は前期比年率プラス0.5%と、2015年10-12月期(プラス1.4%)から減速しました。しかし、米国経済は全般に、堅調な雇用情勢などを背景に底堅く推移しており、今後も緩やかな成長基調を辿るものと予想されます。

金融政策については、FRBは2015年12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)において政策金利の引き上げを決定し、金融政策の正常化に着手しました。ただし今後については、経済動向を見極めながら、慎重に追加利上げの時期を探っていくものと思われまます。

社債セクターについては、米国景気が緩やかな回復基調を辿ると見込まれることから、底堅い展開を予想しております。MBSセクターについては、米国景気の緩やかな回復に支えられ、底堅い展開が想定されます。ABSセクターに関しても、MBSセクターと同様に底堅い展開が予想されます。

こうした環境下、当ファンドはこれまでと同様に、組入債券の信用リスク、金利リスク等に配慮しつつ銘柄を厳選し、運用に注力していく所存です。

お知らせ

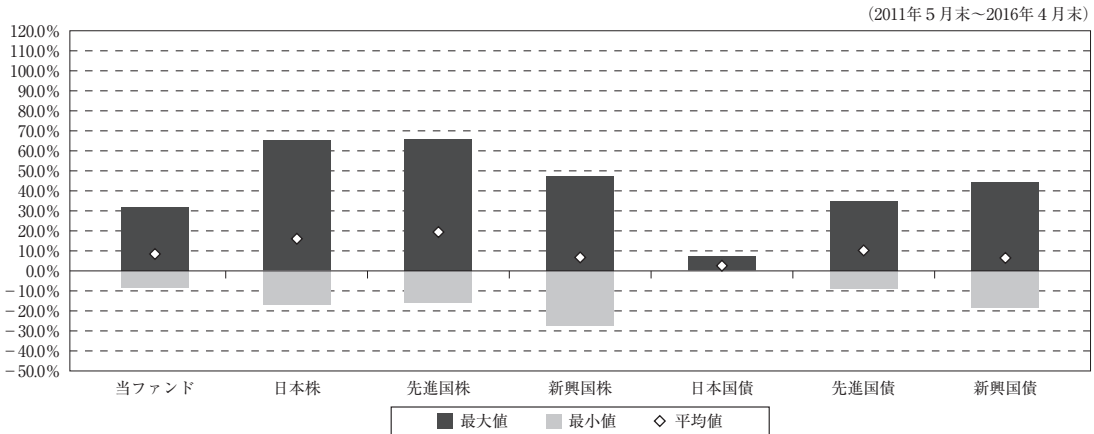
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	主として米ドル建債券に投資し、米ドル短期金利を上回るインカムゲインを獲得することにより、米ドル短期金利水準の分配を毎月行い、米ドル原資産元本の安定した運用成果を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	「LM・米国短期投資適格債マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	LM・米国短期投資適格債マザーファンド	主として米ドル建ての米国公社債を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	株式（新株引受権証券等を含みます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以内とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	LM・米国短期投資適格債マザーファンド	外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	決算日（原則として毎月18日、休業日の場合は翌営業日）に、収益分配方針に基づいて分配を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	31.9	65.0	65.7	47.4	7.4	34.9	44.1
最小値	△8.4	△17.0	△15.6	△27.4	0.4	△8.6	△18.1
平均値	8.9	16.1	19.5	6.8	2.6	10.3	6.6

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年5月から2016年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

* 各資産クラスの騰落率を計算するために使用した指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、ヘッジなし・円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、ヘッジなし・円ベース)

日本国債：シティ日本国債インデックス (円ベース)

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：シティ新興国市場国債インデックス (ヘッジなし・円ベース)

(注) 海外の指数は、各資産クラスに為替ヘッジなしによる投資を行うことを想定して、円ベースの指数を採用しております。

(注) 上記各指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はその指数を算出、公表しているそれぞれの主体に帰属します (TOPIX：株式会社東京証券取引所、MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックス：MSCI Inc.、シティ日本国債インデックス、シティ世界国債インデックス、シティ新興国市場国債インデックス：Citigroup Index LLC)。また、それぞれの主体は当ファンドの運用に関して一切の責任を負うものではありません。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年5月18日現在)

○組入上位ファンド

銘柄名	第172期末
L M・米国短期投資適格債マザーファンド	100.2%
組入銘柄数	1銘柄

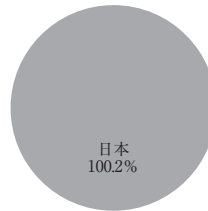
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

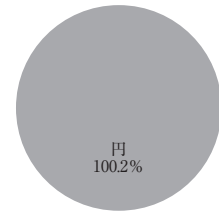
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は組入資産(現金等を除く)の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産(現金等を除く)を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

純資産等

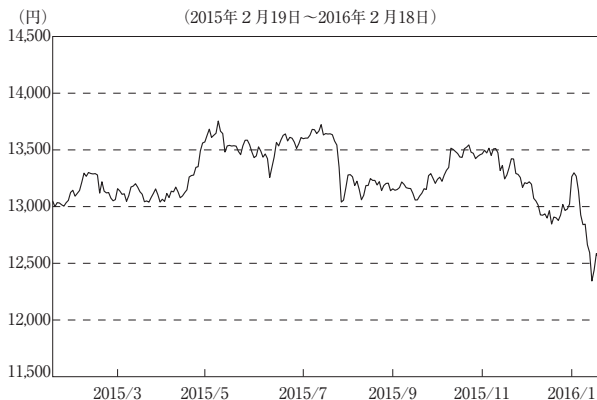
項目	第167期末	第168期末	第169期末	第170期末	第171期末	第172期末
	2015年12月18日	2016年1月18日	2016年2月18日	2016年3月18日	2016年4月18日	2016年5月18日
純資産総額	13,230,000,034円	12,488,311,034円	11,795,070,301円	11,128,813,504円	10,608,443,815円	10,459,629,368円
受益権総口数	16,682,056,982口	16,475,772,670口	16,011,860,227口	15,490,012,991口	15,176,134,986口	14,840,998,192口
1万円当たり基準価額	7,931円	7,580円	7,366円	7,185円	6,990円	7,048円

* 当作成期間(第167期～第172期)中における追加設定元本額は3,423,713,990円、同解約元本額は2,729,196,857円です。

組入上位ファンドの概要

L M・米国短期投資適格債マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年2月19日～2016年2月18日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	6 (6)	0.041 (0.041)
合計	6	0.041

期中の平均基準価額は、13,292円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2016年2月18日現在)

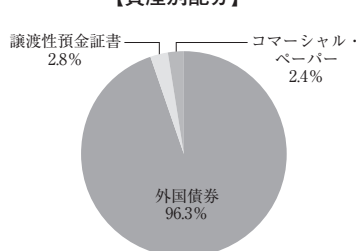
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 US TREASURY NOTE 0.875% 2016/11/30	国債証券	米ドル	アメリカ	6.5%
2 US TREASURY BILL 0% 2016/6/2	国債証券	米ドル	アメリカ	4.6%
3 T-NOTE INFLATION INDEX 2.375% 2017/1/15	国債証券	米ドル	アメリカ	2.9%
4 US TREASURY NOTE 0.375% 2016/3/15	国債証券	米ドル	アメリカ	2.6%
5 US TREASURY NOTE 0.5% 2016/8/31	国債証券	米ドル	アメリカ	2.3%
6 US TREASURY BILL 0% 2016/5/26	国債証券	米ドル	アメリカ	2.3%
7 US TREASURY NOTE 0.875% 2017/1/31	国債証券	米ドル	アメリカ	1.6%
8 GNR 2011-H19 FA 0.721% 2061/8/20	特殊債券	米ドル	アメリカ	1.6%
9 US TREASURY NOTE 0.5% 2017/3/31	国債証券	米ドル	アメリカ	1.5%
10 FED HOME LN DISCOUNT NT 0% 2016/7/27	普通社債券	米ドル	アメリカ	1.4%
組入銘柄数	169銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

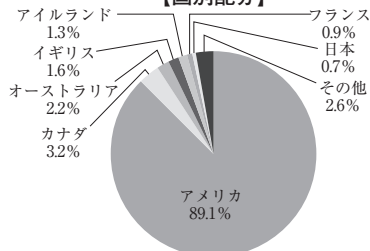
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

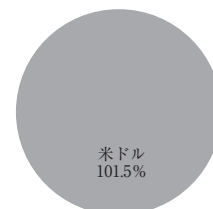
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産(現金等を除く)の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産(現金等を除く)を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。